

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第9回 理事会

日 時：2014年 9月 24日（水）19：00～：

場 所：コンセーレ

出席者：

- （ 理 事 長 ）：村上(敬称省略 以下同)
（ 直 前 理 事 長 ）：
（ 顧 問 ）：
（ 副 理 事 長 ）：朝田、木村(英)、福田(之)、小瀧、須山
（ 専 務 理 事 ）：
（ 監 事 ）：黒川、澤畑、飯野
（ 担 当 常 任 理 事 ）：林、金
（ 全国大会招致会議議長 ）：羽石
（ 会員拡大会議議長 ）：太城
（ 協働連携特別会議議長 ）：
（ 法令会計審査会議議長 ）：廣田
（ 事 務 局 長 ）：橋本
（ 委 員 長 ）：飯沼、新妻、豊崎、中島(晴)、木村(武)、相馬、
鈴木(善)
（ 副 議 長 ）：宮林、渡邊、高松、山田、福田(弘)、船見、安野
青木、横島、梅田、岡田

1. 開会宣言 <朝田>(役職名省略 以下同)
2. JCIクリード唱和 <渡邊>
3. JCIミッション並びにJCIビジョン唱和 <船見>
4. JC宣言朗読並びに綱領唱和 <梅田>
5. 関東地区宣言唱和 <山田>
6. 出席者の確認 <橋本>
出席理事名30/33名
7. 議事録作人の指名
議事録 <総務委員会>
議事録署名人：村 上 正 高
黒 川 崇
澤 畑 敦 史
飯 野 貴 道
8. 前回議事録の確認 <朝田>
9. 議題並びに資料の確認 <橋本>

まずは理事会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。そして皆さん冒頭からお気づきだと思いますが、今日は中島専務が欠席ということになっております。皆さん事情はよく存じ上げているとは思いますが、来年の出向で重い役職が決まりまして、そちらの公務で東京に行っておりますので、これから中島専務以外にも多くのメンバーが、そういった公務が重なって出てこれられないという事情もあります。これは勿論来年度の須山理事長をはじめとする次年度の組織、そして今年度が協力し合っていかなければいけないことですので、ぜひご理解とご協力をいただきたいと思っております。よくこの時期になってくると、今年度が優先だという話が出てきます。皆さん聞いたこともあると思っておりますが、今年度のことは勿論やって当たり前ですが、来年のこともやって当たり前です。これは両方やっていかないとJC運動というものは続かなくなってしまうので、今年度優先だから来年のことはやるなとか、そういうことをいうつもりはまったくございません。今年度お忙しい方も多々出てくると思いますが、本当に頑張っていたきたいと思います。

そして9月といえば1949年9月3日に、日本におけるJC運動というものが始まったわけでありまして。9月3日がいわゆるJCの日というわけです。1949年当時、勿論皆さんもご存じのとおり、戦後焼け野原を見た先輩たちが、日本の再建は我々青年の仕事であるということで、日本におけるJC運動が始まったわけでありまして。当時から明るい豊かな社会というフレーズはあったかと思っておりますが、当時の明るい豊かな社会というのは、もう実現されていると思っております。今における明るい豊かな社会というのは何だろうということを、やはり今生きる我々、このJCの世代は常に考えてやっていかなくてはならないのだと思っております。明るい豊かな町というのは時代によってその姿は変わってきますし、本当に色々な問題が、この豊かな世の中だからこそ昨今出ているのかなと思っております。今日も逮捕されたというニュースが入っていましたが、神戸でも本当に大変な事件が起きましたし、そういったことを考えても、我々青年のやるべきこと、この町の課題や問題点がまだまだあるので、しっかり努めていきたいと思っております。神戸の事件に関しましても、決して他人事ではないと思っております。たまたまあの場所で起きてしまった。これは震災の話と同じですが、色々な事件・事故等があると思っておりますが、我々は常に自分の町で自分の身に降りかかるかもしれない出来事だと思っておりますので、決して色々なことに無関心にならず、全てのことに興味を持って生活をしていってもらいたい。そしてJC運動を通して身近な人に伝えていっていただきたいなと思うわけでありまして。

そしていよいよ今週末、関東地区大会NARITA大会が開催されます。山本顧問が今年会長ということで、非常に多くのメンバーにご協力をいただいて、関東地区の運動を作ってきている、そしてそれを宇都宮JCの理事会構成メンバーが中心となり、関東地区の運動を支えているわけでありまして、その関東地区協議会の集大成がこの週末に行われるというわけです。ぜひ多くのメンバーに駆けつけていただきたいと思っておりますし、以前にもお話ししたと思っておりますが、今年度の関東地区フォーラムがヤクルトホールで開催されました。本当に素晴らしい講師陣、そして魂を揺さぶるような講演が非常に多かったものですから、このNARITA大会も非常に期待しておりますし、それを我々はしっかりと学んで、地域にどれだけフィードバックしていけるかというのが我々の務めだと思っておりますので、勿論仲間の応援も含めて、ぜひNARITAの方に駆けつけていただきたいと思っております。

そして全国大会というのも近づいてまいりました。こちら小瀧副理事長が副議長として出向いただいて、多くのメンバーがしっかりと活躍してくれている。宇都宮のメンバーが今年度の全国大会の重要な部分を作っているわけでありまして。非常に楽しい全国大会であります。松山ということで多少遠いものですが、我々は未来に向けて全国大会というものを夢に描いているROMでありますので、主幹のROMが何をしないといけないのか、何をするのか、そして地域の人に全国大会とはどんな影響を及ぼすのか、そういうみるところ・勉強するところはいっぱいあると思っております。そういった意味でも自分の中で、今年

の全国大会で何を持ち帰ってこようか、しっかり意識をしていただいて、ぜひ松山に多くのメンバーが行っていただきたいと思います。

そして11月には世界大会があります。金常任にも勿論国際グループに出向していただいているわけでありませうけれども、赤松さんが委員長として活躍している国際の舞台ですので、こちらもしっかり見てきたいです。ドイツということで、マイナス10度というお話を聞いておりますけれども、ドイツならではの設えというものがたくさんあると思いますので、そろそろ飛行機の予約をしなくてははいけませんので、ぜひ新妻委員長に相談していただいて、世界会議というのも頭に入れておいていただきたいと思います。

あと残り3か月少々というところで、勿論皆さん仕事や家庭を持ちながらのJCの活動になります。12月31日に向けて2014年度組織として、しっかりと当初目標としたことを達成できるように、またさらに一致団結して進んでまいりたいと思いますので、何卒ご協力をいただきたいと思います。それでは第9回理事会、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

12. 役員報告

<木村(英)> 9月16日の福井先輩をお招きしたビジネスセミナーに参加してくれたメンバーの皆様、ありがとうございました。また、ビジターを連れてきてくださった皆様もありがとうございます。今回こちらを開催するにあたって、メンバーの皆様にチラシを確認なくお配りしてしまったことを深くお詫び申し上げます。今後このようなことがないように、報告議案のほうにも来月10月21日の小田先輩を招いての公開委員会の資料もございますので、最後に皆様にご確認いただきたいと思います。

<船見> 関東地区協議会で会員交流会総括幹事として出向させていただいております。先ほど村上理事長からもお話がございましたが、今週末いよいよ成田の地におきまして、関東地区大会が開催されます。前段の27日土曜日には、前夜祭が成田ビューホテルにて行われます。27日に入られる方は、18時30分からです。お越しくさるようお願い致します。当日はタテカワユキヒデ氏、義家弘介氏、フィフィ氏のフォーラムが開催されます。フォーラムとしましては、「グローカルリーダー」というグローバルとローカルを合わせた造語ですが、こちらをションマクアードル川上氏と諸岡成田直前理事のパネルディスカッションを計画しております。午後にあります大会式典も、成田山新勝寺本堂において未だかつてないような大きい式典を用意しておりますので、皆様まだまだ委員会のメンバーにお声をかけて、成田へお越しください。

<木村(武)> 我々地域交流委員会のほうで進めている、10月4日・5日の例会のことですが、先日私と村上理事長と委員会のメンバーで視察に行ってきました。4日の視察構図ですが、色々な津波の後の家屋ですとか、人がいなく住めないような地域の現状を見られる機会です。4日、今のところ21%の33名の出席となっておりますが、ぜひ来ていただきたいです。相馬市のほうはかなり家屋を壊して、どんどんみる機会がなくなっていくと思います。ぜひ委員会のメンバーにお声をかけていただきたいと思います。そして5日ですが、今の所83名で54%となっておりますが、もう少し事務的な所で必要な部分がありますので、委員会メンバーのほうへ声をかけていただいて、10月5日お誘いしていただきたいと思います。また、10月4日の合同常任理事会ですが、今のところ理事長を抜いて正副で66.6%、常任理事で42.8%、合わせて53.

8%の出席率となっています。合同常任理事会ですので、この出席率ですと進めていけませんので、出席を上げていただければと思います。私個人の意見として、1〜2回で進めてきてこれだと、これは合同常任理事会ですので、決して全国大会に行くというROMのレベルではないなと正直思いました。我々委員会は、今週も荷物が多いので現地に運びにいたりします。運ぶためだけにその距離を走ります。少しメンバーのことを考えて私も熱くなってしまいますが、ご協力していただければと思います。よろしくお願い致します。

<小瀧> 今週末関東地区大会がありますが、全国大会運営会議のメンバーは最後に松山での打ち合わせがありますので、28日の午後から参加させていただく形となります。揃ってご参加いただきたいです。そしていよいよ全国大会まで15日となりました。今年度出向させていただいて、色々経験させていただいて皆で作り上げる全国大会ですが、来年も全国大会運営会議に出向されるメンバーかと思っておりますので、そういったメンバーで、もし全国大会を日本JIC主催者側から見たいという方はご希望があれば、私のほうでも最大限努力しますので、参加するだけではなく、設営側も見たいという方がいらっしゃれば、ご一報いただければと思います。

13. 審議事項

審-01 第110回 通常総会開催報告並びに決算（案）承認の件

協議資料に基づき、飯沼委員長より上程文の読み上げ。

<太城> 大谷資料館という場所でやりましたが、終わった後上がっていったら本当に真っ暗でして、歩くことすら困難な状態でした。下手したら人が出ていたかもしれない暗さだったので、今後またそういう場所で行うことがあるということを考えて、次年度の引継ぎ事項に対策を入れておいたほうがいいと思いました。

<飯沼> ありがとうございます。そのとおりだと思いますので、記載したいと思いません。

<村上> どこに記載されますか。

<飯沼> 引継ぎ事項の運営についての項目の最後のところに一文を加えさせていただきます。

<村上> 金常任、何かございますか。

<金> 特段ございません。

<高松> 出席率等の検証をされたと思いますが、会場についての検証というのが委員長所見に入っていますが、何か意味があるのでしょうか。

<飯沼> 初期段階の検証において、会場がここであったからどのくらい出席率が高まったという数値的な検証の手法というところにつきましては、完全なところはなく、実際は検証については数値的な根拠というものがしっかりあった上

で書かなくてはならないと思いました。ただ今回こういったところでやらせていただいて、所見というところで数値的には示せませんが、結果場所が遠かった、これまでより30分早かったというところに対しても、10%程度出席率が上がったということで、場所については出席率に関係ないのではないかというところを、一応所見という形で書かせていただいた経緯でございます。

<高松> つまり、会場はどこでも良いということでしょうか。

<飯沼> 場所については、出席率に影響を及ぼすものではないと検証できたと考えております。出席率に場所は関係ないと考えております。

<村上> こちらは常任でも言われておりますが、どうしますか。

<橋本> 会場に関しましては、大谷資料館だからどうこうという話ではなく、どんな会場であれJCメンバーは来ると決めたら来るということが実証されたということが、この議案の一番の困窮だと思います。ですので、委員長所見で効果を入れることは、常任でも指摘された点ですので、今回は削除させていただければと思います。

<村上> 会場についての検証というのは、上に入れるのでしょうか。

<橋本> 検証の3番とその下の間に、4番として入れさせていただこうと思います。

<高松> この会場でやって新しいチャレンジでよかったと思いましたが、そこを使ったのであれば、そこを使ってよかったのか悪かったのか、良かった点は何なのか悪い点は何なのかを起こしてあげないと、2回目以降これを設営する方々が、何をやればいいのか、その時どうだったのかという資料が残らないので、それを入れたほうがいいのかという意見です。

<飯沼> 橋本事務局長から補足がありましたとおり、会場選定による検証の部分を検証最後の部分に入れさせていただきます。入れさせていただく内容は2つです。1つは事務局長がおっしゃったような、JCメンバーは行くと決めたら場所は関係なく出席率を高めることができることが分かったという内容、もう1つが委員長所見にも書かせていただきました、今回本来の目的とは違った副次的な効果ではございますが、こんなところがあったんだ、行ったことなかった、素晴らしい地域の宝があるというお声をたくさん頂戴いたしました。そういった地域をメンバーに知ってもらうケースがあったという効果があったことを2点目として上の検証に入れさせていただくことで、ご審議賜りたいと考えます。

<村上> 変更点が多すぎます。審議なので、資料をしっかりと精査した上でないと仮に審議が可決された場合に、そのままの資料を残さないといけませんので、これは今月取り下げてくださいでもよろしいでしょうか。報告ですので、しっかりと精査した上で、来月しっかりとものを上げていただけてよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。

本案件取り下げ 審議事項2番が1番項に繰り上げ

審-01 11月例会 まちづくり事業開催報告並びに予算（案）承認の件

協議資料に基づき、梅田副議長より上程文の読み上げ。

<村上> 林常任、何かございますか。

<林> 特段ございません。

<村上> 法令会計コメントをお願いします。

<廣田> 私どもの不注意ですが、公演セミナー依頼承諾書の金田先生と安藤先生と田村先生と陣内先生の部分ですが、印紙の消印が私の指示ですがバツで書いてありますが、正式には作成者もしくは代理人契約者のサインでないといけないので、こちらは後日責任を持って、中島委員長のサインに変えさせていただきます。他の部分は特段問題ございません。申し訳ありませんでした。

<村上> ご意見・ご質問等をお願いします。
安野副議長いかがですか。

<安野> 見させていただきましたが、プレゼンリストは前回の理事会どおり自治会から6組ということを出ているので、いい例会になるように当日までしっかり準備をしていただきたいというところと、1つだけ細かいところですが、シナリオで主催者印刷のところは村上正高さんになっているので、村上正高理事長とかに変えていただいたほうがいいのではと思いました。

<村上> シナリオについては参考資料であります、しっかり精査をしてください。
自治会はつり合わせ等はどうですか。

<梅田> 順調に進んでおります。

<村上> 前回は質問とかあったと思いますが、プレゼンテーションの質とかは色々なところでされているので問題ないとおっしゃっていましたが、皆さん若干不安はあると思うので、そこはしっかりと委員会がフォローをできるような形にしましょう。市民の人が大勢集まって見て分かりやすいようなプレゼンになるように、しっかり細かく提案してほしいなと思います。

<村上> 鈴木委員長いかがですか。

<鈴木> 審議対象資料の人身プレゼンテーションのパワーポイントですが、分かりやすくなっていますが、宮祭りの写真が去年の写真ではないかと思えます。

<村上> 写真はぜひ、今年のものにしてください。

<村上> 羽石議長いかがでしょうか。

<羽石> プレスリリースのところですが、これははじめて見ましたので、こういうのでいいのかなというところと、パネル展示の合計が10団体となっております。意見と対応を見ていると、現時点で13団体となっておりますので、今

後委員会としてどのように考えているのかなというところでつり合わせが必要かと思います。

パネル展示にあたって、パネルのサイズ等は決まっているかと思いますが、そちらの記載があった方がいいのかなと思います。

<梅田> パネルサイズの規格は、議案のパネル展示内容の中に記載させていただいております。

<羽石> あくまで対外に出すのであれば、審議資料であると思いますので、審議に変えていただくか、募集要項に付け加えるかというのが必要かと思います。

<梅田> そのように添付させていただきます。ありがとうございます。

<村上> そうしましたら参考資料の21番パネル展示内容、こちらも審議対象資料にするということよろしいですか。

<梅田> はい。

<村上> 分かりました。その他ご意見、木村委員長どうでしょうか。

<木村(武)> 議案に対しての意見ではありませんが、今までの理事会で、色々な理事の方が自治会はとても難しいところだと聞いたと思いますが、あくまで最後までこの自治会をメインに持ってきた例会を作っていく。当日自治会は難しいと私もいったと思いますが、色々進んでいると思いますが、最後審議前に意気込みか何か聞かせていただけますか。自治会という難しいものをメインに持ってきて、マイナスを跳ね返したのですが、何故自治会を中心にしたかを聞きたいです。

<村上> 委員会としては、この事業をするにあたって、目標を達成するには自治会は必要不可欠だということだと思いますが、そのことについて、そして現状は自治会さんと目標を達成するためにしっかりと連携をして、事業を成功できるかということ、少しお話を補足していただければと思います。

<中島(晴)> ありがとうございます。今まで色々ご意見をいただきまして、自治会さんはどうしても難しい部分があるということでもいただいておりますが、この例会で自治会を巻き込むことによって、地域の一番身近なレベルでのまちづくりという段階の取り組み方を、市民の皆様にご存知いただくこと、そしてその身近な段階の取り組みをさら連携して、まちづくりが大きく広がっていくことを期待して、NPO団体・企業・それから大学生の研究内容ということで、ミックスしながらまちづくりを繋げて広げていこうという趣旨で、最後まで自治会というところにこだわらせていただきました。自治会さんとの打ち合わせは今まで重ねてきておりますが、皆様非常に熱心に活動されている自治会さん、興味深い活動をされている自治会さんがかなり多数ありまして、プレゼン内容に関しましては、私としては問題なく出来上がると思っております。それに関しては我々委員会をサポートしながら、先ほど理事長からご指摘ありましており、分かりやすいプレゼンになるようなものを作り上げられるように、委員会メンバー全力でサポートしていきたいというふうに思っております。また、その自治会さんと通ずるにあたりまして、宇都宮市自

治会連合会の会長・事務局長からも多大なるバックアップもいただき、せっかくやるからにはぜひ皆で成功させていこうという力強いお言葉もいただきまして、今回の例会の議案状の作成に踏み切りました。今年度最後の公益事業となり、JC運動としての発信をこの例会を通じてしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

<木村(武)>自治会は私も入っているのですが、とても難しいのは分かっていると思いますが、末端まで伝わるように進めば成功するのかなと思いますので、頑張ってください。

<村上> いかにかこの場所に来てもらうかというのは、非常に重要だと思います。多分関わってくれている人が来てくださると思います。委員会計算として。ただ、それはその人たちの意思ではないです。僕らが訴えかけないといけないのは、やはり意識の低い人たちをいかに巻き込めるかだと思いますので、そこはしっかりと徹底して、そして審議可決した暁には理事会構成メンバーにしっかりとご協力をいただきたいと思います。

<太城> まちづくり共同宣言で調印式みたいなものをやるとは思います、少し懸念されるのが、自己満足な単発で終わってしまうのが非常に怖いなところがあります。JCは単年度制という性質もありまして、その時の理事長の考え次第になる仕事とかもあります、その辺のフォローなどはどのようにお考えでしょうか。

<梅田> まちづくり共同宣言文署名のときは、ダニエル・カール氏に進行していただいて流れの良い進行をしていただこうと考えております。

<中島(晴)>補足させていただきます。勿論単年度制ということで今回かぎりのことになってしまうのかなと思いますが、それが形に残ることによって、市民皆、参加団体の皆さんにとっては今後のまちづくりに繋げていっていただき、そして共同宣言をして記者会見を行うことにより多くの市民の皆様々にメディアを通して発信して、それが市民全体に伝わってまちづくりとして推進していくような事業として構築することを考えております。

<村上> ここに出てきた人たち同士で繋がるという狙いはありますし、そういった意味ではこれで可能性はあるわけです。僕たちの事業としては単発かもしれないけれど、出てきてもらった人たちが繋がって、大きなまちづくりになるように広報を最大限発揮できるようにしていただきたいと思います。

<福田(弘)>太城議長のご意見を受けてのお話ですが、各種団体との打ち合わせ新着状況の中で、宇都宮市みんなでまちづくり課とか打ち合わせをされていると思います。各会もしていただいていると思いますが、この共同宣言を今後も推進していってくださいと行政のほうに働きかけることで、今後形になって残っていくこともあると思いますので、事業のほうは上手いけば市役所の行政のほうでもこの宣言を継続的に力となってくれる部分があると思います。是非とも行政のほうとも打ち合わせをしていただければ、先ほどの共同宣言も今後残っていくのではないかと思います。

<福田(之)>常任理事会のときから審議対象資料に載っている、3番の金田さん、田村さん、安藤さん、陣内さんですが、この方たちのセミナー依頼承諾書を取った

という、この方たちがどこでどのように現れるかというのが、議案書の中から探していましたが見当たらないのですが、どういうことをするために承諾書を取ってここに添付したのか、意図を教えてくださいたいです。

<中島(晴)>この4名に関しましては、ステージ上でご来賓とコメンテーターという形でご参加いただくこととなります。つきましては、資料の参加団体リストのところにご来賓という名前でリストアップさせていただいております。ステージ上でコメントをいただくということに関しまして、コンプライアンス上の問題ということもありまして、セミナー以来承諾書を預かるということになりまして、添付させていただきました。

<廣田> 中島委員長の自治会等のご説明を聞いた上で質問ですが、対外の目的としては地域となっているはずですが、自治会の活動を紹介して広めていくにあたり、NPOとかまちづくりをやっている団体とコラボをさせてより拡散させていこうという狙いだと思いますが、現時点で良いマッチングがあったかどうか教えてください。

<中島(晴)>現時点ということで、今回のプレゼンテーションに参加していただく中ということだと、参加団体としてCSR企業として上げているトヨタウッドユーホームさんが、自治会と連携して活動となっています。自分たちのその企業の事業を通しての取り組みとなってくるとは思います。自治会にどうしても入りづらいという部分もありますので、あらかじめ企業側で新しい住民に対してのコミュニティを作りまして、そこで自治会さんと結びつけるというような、ワンクッション入るといような形で取り組むというのが、実際に事例として上がっております。

<宮林> 他の地域での自治会とNPOの連携事例というところを拝見しておりますが、連携出来た事例を見ていますが、やはり自治会は非常に狭い地区が向いているといえますか、その自治会が存在する場所について活動することに向いていまして、連携出来ている事例はNPO法人が関わってはいないみたいですが、かなり狭いところで連携しているなという印象がございます。宇都宮JCも今回参加の団体ではありますが、宇都宮JCであるとか、先ほどおっしゃっていただいたCSR企業とか、少し大きいところを向いている企業と自治会というのは、実際に連携というのはどうなのかなと感じましたが、いかがでしょうか。

<梅田> 事例があるかということによろしいでしょうか。

<宮林> 連携が想定されているのかということのところでは、委員会として打ち合わせ等を行っていらっしゃると思いますが、連携が打ち合わせ段階で出来ている部分や感触があるかどうか、お聞かせいただければと思います。

<中島(晴)>自治会とその他の大きな企業での連携ということだと思いますが、自治会というのは宮林副議長がおっしゃったように、場内という小さな地域での活動、自分たちの住む身近なところの活動や内向きの活動になってしまうのは仕方ないかと捉えております。宇都宮にはそういった自治会が787自治会ありまして、その他に自治会が連携して形成された39地区の大きな組織があります。39地区の自治会として地区で動きますと、より大きな活動とい

う部分になってきます。また、内容としましては、各自治会長さんとお話しさせていただきまして、色々自分たちで独自のものを組み込んでいらっしゃる自治会がたくさんあり、またその中でもNPOとか企業とかとはまた別ですが、周りの老人ホームなどを行き来したりしながら連携して活動しているということもあり、自治会の中でも高齢化している部分もあるので、色々な外部からの連携というのは期待できるのかなと考えております。

<村上> いただいた意見も最もですので、そういった視野・視点も入れながら進んでいただきたいと思います。

【採決】 賛成30票 棄権1票 審議可決

<太城> この例会がどうこうというよりも、これまでのプロセスが腑に落ちないというところがありまして、時間が来たから可決しましたというところを感じます。説明すべきところを説明せず、変えるべきところを変えず、意志を通してきたわけですが、理事会を軽んじているように感じましたので、白票にしました。

審-02 9月新入会員認証（案）について

協議資料に基づき、高松副議長より上程文の読み上げ。

【採決】 全会一致 審議可決

14.協議事項

協-01 第111回通常総会 開催計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、飯沼委員長より上程文の読み上げ。

<山田> この会場に至った背景を教えてください。

<飯沼> 場所はベルヴィ宇都宮となっております。会場選定の理由と致しましては、110回で少し立地の悪い場所での例会でも多くのメンバーに来ていただくことができたということで、今回はそれと対比致しまして、知名度も高く駐車場も広い、アクセスのしやすいベルヴィ宇都宮という場所で同じような手法で動員をかけた場合、どう変わるのかというところの検証にもなると考え、どちらかという立地の良い会場の選定をさせていただきました。

<鈴木(善)> 前回の大会の上程のときは、僕の個人的な理由として、ここでやりたいという思いがとても伝わりました。ですので、私もメンバーに来てくれと何度もお願いしました。ですが、今の上程を聞いているとこの間の熱さがないというか、なぜそんなに温度差があるのかなと思いました。多分そこで動かされる部分もあると思います。いつものように熱い上程をしていただいたほうが

嬉しいです。

- <飯沼> 前回達成に至りませんでした73.5%、あと6.5%に向け、総務委員会として80%の出席をめざすべく、頑張っただけだと思います。
- <豊崎> 今回のこの総会のほうですが、次に上程させていただきます報告事業と会場が一緒になっております。先に総会のほうをやらせていただきまして、その後報告事業となります。こちらの会場選定につきまして、飯沼委員長のほうと私のほうでお話をさせていただきまして、選定をさせていただいております。
- <村上> 先ほど鈴木委員長がおっしゃったとおりで、常任のときにも反動が怖いといういました。前は多分いろんな意味でハードルが高いと思われていたというか、委員会の熱意がとてメンバーに伝わっていたと思います。それが今回あまり伝わらないというお話をさせていただいたのですが、そのとおりの上程だったのかなと思います。いずれにしても、総会というのは本当にこの組織としての最高意思決定機関でありますし、これはもう当たり前のようにメンバーがしっかりと出席をしなければいけない。やはりその意義であったり権利であったりを訴えかけ続けるというのは必要だと思いますので、そこだけはしっかりお願い致します。

協-02 11月 報告事業（案）について

協議資料に基づき、豊崎委員長より上程文の読み上げ。

- <安野> 2つ質問があります。1つは、総括映像ですが、タイムテーブルをみるとどこにも流すタイミングが書いていないのですが、どこで流す予定なのか。もう1つは、アンケートを見させていただきましたが、一番聞きたいところの目的は、知識を共有して高揚を図るという目的があると思いますが、その目的を鑑みて一番聞きたいところは、委員長としてはどこなのでしょう。
- <豊崎> まず1点目ですが、大変申し訳ありません。最初の対話集会形式ディスカッションの前に6分ほどお時間をいただきまして、こちらのほうで放映する予定です。2点目のアンケートの目的の中で一番聞きたいところですが、出向者の皆様の、出向先での運動・活動という点でどういうことをされてきたのかという、出向されていないメンバーは分からないのが現状かと思っております。こちらを一番のポイントとして捉えております。
- <安野> 報告事業ということで、1時間半くらい事業があるのに、映像を含めて報告が30分くらいしかないというのはどうなのかなと思ったので、もう少し報告の時間が取れるような工夫がないのかなと、時間がないのですがご検討いただきたいです。
- <豊崎> 時間配分等を再考致します。
- <山田> 全国大会集会対話形式ディスカッションのシナリオを見て質問ですが、このタイムテーブルですと、質問して回答するというのを6往復想定されていると思うのですが、出向者代表と他の代表者はそれぞれ双方1名ずつ登壇す

る予定になっていると思いますが、基本的にはこの質問をする人・会頭をする人というのは全員には分からない設えということでしょうか。

<豊崎> こちらは人選が固まり次第、各代表者の方とお打ち合わせのほうをさせていただきたいと考えております。時間上11名全てに回答権は行けないかなど、今のところは考えておりますが、その他会場からの質問等を考えております。こちらで、なるべく多くの方に発言いただける時間を取りたいと考えております。

<山田> ありがとうございます。
参考資料の対話集会形式ディスカッションとはという資料の1行目の日本JIC国際グループ全国大会運営会になっていますので、地域グループに訂正をお願い致します。
添付資料のリンクが2カ所あると思いますが、〇×質問形式ディスカッションのリンクが飛ばないのですが、どのようになっているのでしょうか。

<豊崎> ご説明させていただきます。全体の流れとしましては、司会者を2人壇上のほうに、最初の対話集会形式のほうから立てさせていただいております。小瀧副理事長、橋本事務局長ということで、出向者代表司会者、それから委員会の代表司会者ということで登壇していただいております。こちらのほうで各出向者メンバー、委員会メンバーのほうに質問を投げかけさせていただきまして、〇×方式ということで全員に〇×でご報告いただきまして回答をしていただきたいと思いますと考えております。

<山田> そうしますとスケジュールでいくと、対話集会形式ディスカッションが終わった後、登壇したメンバーはその場に残った上で、〇×の方に移る流れということでしょうか。

<豊崎> そのとおりです。

<太城> 全国大会対話集会方式ですが、やはり対話集会のようにパフォーマンスで全員手を上げるような感じにするのでしょうか。しない場合は誰も手を上げないと思いますが、そういった対応はどうお考えでしょうか。

<豊崎> 対話方式ディスカッションということで、先日大宮のほうでやられました、全員が元気な声ではいと手を上げる形を取らせていただきたいと思いますと考えております。全国大会対話集会に参加されていない方、経験したことがない方に対しては、当委員会のほうで映像を押さえてありますので、映像を各自見ていただきまして、どういったものかというのを見ていただくことになっております。

<村上> まずこの報告事業をやる時はとても難しく、大体飲食を伴って席を動いてしまっていて、聞いてないというところが一番懸念されるというところで、私も正副のときには出ていた話なのですが、というところで多分この全国大会ディスカッション方式というのを採用してくれたと思います。これを見た人は、半分パフォーマンスではありますが、引き付ける効果はあるのかなどと思いますが、今質問でもありましたが、パフォーマンスだとしてもこれは目的を達成するためのパフォーマンスですので、質問と答えが事前に用意され

ていてもいいと思います。事前に回答者・質問者というのを決めて、しっかりその効果というのを、たとえば上程でもそうですが、急に意見をぽっと出されて、本当はこれがいいかったのに、少し違うことをいってしまったとかいうのはあると思います。それが事前に準備されれば、しっかりと自分の言葉で伝えることがと思います。このほうが効果は高いと思うので、勿論対内ですし、これは今年それぞれ委員長や出向した皆さんがえた経験を財産にしていくのに、非常に重要なものだと思っていますので、そこの作り込みをしっかりしていただきたいというところと、誤字脱字が指摘されていましたが、非常に多いのと、少しがっかりだったのが、シナリオの中で今年のスローガンが違っているというのがあって、その辺も精査をした上で質問等をしっかり作っていただきたいと思います。

協-03 9月新入会員認証（案）について

協議資料に基づき、高松副議長より上程文の読み上げ。

- <村上> 1点、齋藤崇文君ですが、スポンサーが木村副理事長になっていますが、推薦は2年残っていないと駄目なのではないでしょうか。
- <廣田> 2年間面倒をとというような決まりがあるだけで、それが現役でなければならぬというものではないです。OBになられても連絡は着くと思いますので、その責任は果たせると思います。
- <村上> 今までの流れだと、現役で2年残っていないといけないというのがあったと思いますが、廣田議長がそうおっしゃっておりますので、そこを踏まえた上で審議に行くかどうかを判断いただければと思います。
- <高松> こちらで審議格上げをお願いしたいのですが、その前に推薦者についてですが、おそらく我々も数ヶ月ありますし、次年度以降も推薦者の件があると思いますので、白黒はっきりさせていただくと、我々で決めてしまっているのか、それとも理事会構成メンバーのほうで決めたほうがいいのか、正副一任で決めたほうがいいのかを決めていただきたいです。特段廣田議長のおっしゃるとおり、明確な規定がない場合は内規という形で正副の皆様で判断していただければと思います。決めていただければ、我々も来年以降しっかり引き継いでいけば、こういったこともなくなると思います。
- <村上> 規則等に関しましては、法令審査会議を今年設置したというのが非常に重く考えて設置をしているので、廣田議長がそのような見解を出されたということで、私としては廣田議長の見解でかまわないと思います。あとは推薦者が自筆で書いて、責任と面倒を見ますというところであれば、問題ないと思います。監事、コメントをお願いします。
- <黒川> 諸規定に記載されているとおりにやるのが当然かと思います。
- <高松> 推薦者は拡大委員会のものになる場合が多いと思いますが、ある程度入ると推薦者があつという間に3人いってしまうので、できれば間口を広く取っておいていただければと。もし現役のみとすると、だいぶ人数が少なくなつて

しまうので、問題がなければ2年未満の人も推薦してもいいとしていただけると、拡大委員会としてはやりやすいなと思います。

<廣田> 会員資格指定の第2条のキュゴウのマタ以降がかかってきていますが、厳しくするのであれば、これは諸規定なので守らなくてはいけないのは会員、そこで繋がってくるのは正会員ということです。ただここに書かれている、指導する責任を負っていただけるというのを、私は署名をしたときにこの責任は2年間発生して負わなくてはいけないという自覚が推薦人にあると思いますので、緩くといういい方は変ですが、間口を広げるのであれば、その署名をした時点での責任の発生となると思いますので、どちらの見解でも取れるかと思います。

<羽石> この話で皆さん混乱されているかと思いますが、この推薦人になった方がどのような責任を負われるのかということをご説明していただくことはできますでしょうか。

<廣田> 諸規定の記載のとおり、出席の履行と会費納入に関して指導する責任を負わなければならないです。

<羽石> 出席が悪かったら連絡を取り続ける、会費が納入されない場合は何らかのアプローチを取り続けるということでもよろしいというのは分かりました。あとは今後20代の方が入ったときに卒業するまで、10年間とか責任を絶対的に負うという認識でよろしいでしょうか。

<廣田> 責任の部分に関しては、努力・努めるという責任だと思います。未納があったら代わりに払うとかそのような会ではないと思いますので、努力責任というものでしょうか。その程度だと私は認識しております。

<高松> 仮に卒業したとしても、その責任は必ず負うと思います。この推薦人は木村副理事長ですが、卒業したとしても自分は知らないということは絶対ないと思うので、このままいきたいと思います。

<村上> 1点だけ質問をしたいのですが、理事の皆様がこういるところで、ある程度の方向性を決めたところが規則の見解というところになると思うので、1点確認ですが、今出席の確認とかのお話が出たと思います。それはOBになった場合、どうやって確認するのかというところですか。そこはどうお考えですか。

<高松> 推薦者は、そのメンバーが来ないとなると理事会にも出席していないと上がります。すると、現役の方から推薦者に連絡が行きます。推薦者に来ていないですというお話がいきますので、そこで推薦者が本人に出席していないようだけど、何かあったのかというような確認をするという形になるかと思います。逆にいうと、毎回行っているかの確認はできないかと思いますが、そういう形の方向を取りたいと思います。

<村上> ということは、これからは卒業した推薦人には、卒業してから2年間は卒業していたとしても、出席しているかどうかというのを現役がOBに報告するということになるのでしょうか。

<高松> そうということになると思います。

<澤畑> 色々正副と監事のほうで協議させていただきましたが、今回の推薦人に木村副理事長がいるということに関しては、今年度の諸規定とおりに行うということで、このまま木村副理事長を推薦人として、2年間ということなので、木村副理事長にはぜひ頑張ってくださいたいです。今後につきましてはやはり、こういった問題が出てくるということが想定されますので、監事も私たちも含めて正副ともう一度協議をしてどうしていくかというところを決めていきたいと思っていますので、今回にかぎり諸規定変更していますので、このまま問題なく木村副理事長でお願いいたします。

<高松> 特段問題がなければ、審議格上げの動議をお願い致します。

<朝田> 審議格上げの道議がございました。セコンドされる理事の方、右手挙手をお願いいたします。

羽石議長 山田副議長
全会一致 審議格上げ 審議事項3番項

14. 報告事項

報-01 対外出向者について

<朝田> ご一読ください。

報-02 年間公式スケジュールについて

<朝田> ご一読ください。

報-03 2014年度カレンダーについて

<朝田> ご一読ください。

報-04 年会費入金状況について

報-05 特別会員入金状況について

<宮林> すでに除名の警告を出させていたいただいている状況ですが、未だ未納の会員の方がいます。期限としましては、10月23日までに入金を確認出来ない場合は、除名について総会決議を上げるという時期にすでに来ておりますので、度々お願いしているところではございますが、もう一度最後に委員長、議長の皆様から未納の方にお声掛けをお願いしたいと思います。

<廣田> 今回添付した資料は、表紙の部分で間違っておりますので、明日改めて議事メーリングにて未納者のリストをお送りしたいです。

<村上> 未納者は誰ですか。というのは、メンバーのこの中で繋がりがある人がいたら、状況を聞きたいのです。

<廣田> 9月22日の時点での未納者になります。
福田君、前期・後期とも未納です。この方は連絡が取れない状況でございます。
あと、大田原正幸さん。9月中には後期分のお支払いをいただくというご連絡をいただいております。
あと、舩渕武士さん。この方も22日に連絡を取りましたが、未だ折り返しがない状態です。
伊澤さんですが、この方は8月25日に連絡は取れているのですが、それ以降は連絡が取れておりません。納入日の連絡をしてくださいとご相談させていただいていますが、その後連絡が取れていません。
政策委員会の齋藤雄一さんですが、10月末に納入予定となっておりますが、10月末ですと間に合いませんので、できれば中旬までの入金をお願いしております。
政策委員会の田村圭くん。この方も後期分が未納になっております。現状めどが立たないというご連絡をいただいております。
青少年育成委員会の小林勝くん。10月中旬に後期分を納入していただく約束となっております。
妹尾恭幸くん。連絡がとれまして、9月中に前期・後期分の納入をしていただくことになっております。
全国大会招致会議の高久武くん。9月26日に後期分納入予定となっております。
会員拡大会議の石原くん。10月には後期分を入れる予定となっております。
堀江さんは、現状めどが立っておりません。
以上、前期・後期共に納入されていない方が3名、後期分を納入されていない方が8名となります。

<村上> 今それぞれ委員長の皆さんは、今聞いていると活動がアクティブなメンバーとそうでないメンバーがいると思いますが、お金払え払えというのではなく、勿論払ってもらうのは大切ですが、それも難しい問題を抱えている人たちもいると思います。そのメンバーの友情をもって、どういう状況なのかまず心配をぜひしてあげてください。別に繋がっているメンバーがいれば、そこもぜひフォローしていただいて、一番いいのはお金もしっかり払ってもらって、またJCでしっかり活動してくれるようになることが一番望ましいです。そういった大きな友情の心を持ちつつ接していただきたいと思います。

報-06 例会出欠報告について

<朝田> ご一読ください。

報-07 削除

報-08 ビジター報告について

<朝田> ご一読ください。

報-09 ビジター名簿について

<朝田> ご一読ください。

報-10 メディア掲載報告について

<豊崎> 先日のストリートダンス選手権につきまして、下野新聞と〇〇に記事を掲載させていただきました。下野新聞の報告と致しまして、下野新聞の一面に記載していただきました。

報-11 小田歴代会頭講演会チラシ作成について

<高松> 10月21日火曜日に、小田先輩をお呼びして講演会を開催したいと思います。今回チラシを作っておりますので、交付をさせていただきます。タイトルに関しては、タイトルとなっておりますが、小田先輩と今相談をしておりますので、こちらに関してはしばらくお待ちいただきたいと思います。運営に関しましては、もう少し頑張ります。21日火曜日午後7時より、コンサーレ1階でやらせていただきます。皆様くれぐれもビジターのご動員をお願い致します。連れてきていただければ、私どものほうでしっかりとご対応をさせていただきます。

<金> ポスターの件でいくつか質問ですが、費用がどこから出ているのか見えないので、これがどの科目から出ているのか。そして、このチラシはどのくらい作るのか、いつから配布するのかというのがお伺いしたいと思います。

<木村(英)> お金の面に関しては、拡大の年会活動費の中からまかなっております。会場費も同じです。いつから撒くのかということですが、小田先輩とのタイトルなどの内容が決まり次第作成して配布したいと思います。その際は専務理事、ご協力をお願い致します。

<金> 福井先輩の時が、確か9月16日が実施で、チラシが配られたのが9月10日の常任理事会の時でした。非常に短い期間だったので、せっかく良いものを作るのですから、なるべく早い段階で出して効果を上げていっていただくよう、お願いしたいと思います。

<小瀧> チラシですが、小田興之彦先輩のヨシヒコのヨが間違っているので、与えるという漢字の旧字を使ってください。

<高松> 大変申し訳ありません。修正致します。

<鈴木(善)> こちらは宇都宮市民の一般の方にも多く配布するかと思います。なので、場所のコンサーレ1階大ホールの後に括弧して住所と電話番号を記載したほうが良いと思います。

報-12 次回開催について

10月22日(水) コンサーレ 19:00~

まずは総務委員会の皆さん、本日の設営お疲れさまでございました。そして専務理事代理の朝田副理事長、不慣れな進行本当にお疲れさまでございました。来月は中島専務ですよ。

さて、本日は審議案件が2本ありましたが、まず総会案件、これはもう一度議案の作り方というものをよく見直してから、審議事項でありますから、よく考えて作っていただければと思います。そしてこの11月例会まちづくり事業ですが、本日審議いただきましたが、いただいたというよりも、いただけたと思って準備を進めていただけたらと思います。とにかくよく理事長からもいっていますが、段取り8分といいますが、本当に私もそうだと思いますので、人によっては、JCは段取り9分という人もいますから、ぜひ良い準備をして当日を迎えていただければと思います。

さて、新入会員認証で少し不慣れなところがございましたが、非常にこれは今後このようなことがないように、この事務方でよく検討していただいて、皆さんにも良く検討していただいて、良い透明性な運営をしていただければと思います。

また、年会費のところ、11人年会費未納のメンバーがいるということですが、どうでしょうか、報告事項とかではなく一度理事会とかで協議してもいいのではないかと、監事3人で思っていたのですが、そういうことも検討しながら、この年会費について考えていただければと思います。

最後になりますが、本日こんなに当たり前ではありますが、欠席者が4名ということで、例年9月というのは理事会の出席率が低くなっていくのですが、今年9月は結構いるなど。過半数をしっかりと、毎回満たしてはいますが不安になる時もあると思います。何でかという、こうやって総務委員会の皆さんが設営しているからだと思うのです。やはりそれに答えようと、理事の皆さんも来ていると思うので、引き続き総務委員会の皆さんは設営をよろしくお願ひしたいと思います。本年度と次年度、交錯する時期かとは思いますが、ぜひ体にはご配慮いただきまして、私からの監事講評とかえさせていただきます。本日はお疲れ様でした。

16. 閉会宣言